

藪の中

樹輝

登場人物

アオイ・・・事故で記憶を失っている。

ミドリ・・・社交的な性格でヒロと仲が良い

タマ・・・かなり幼い性格をしている。アオイ、ミドリ兩人に好意的な印象を持っている。

若干常識に欠ける部分があり、おかしな言動をしてしまうことがある。

ヒロ(17)・・・ヒロインの幼馴染。家が隣同士で、両方の家とも両親が不在なため、ヒロ

インとは親しい。

緑川 夕(26)・・・ヒロインの姉。海外の大学を卒業して、現地で精神科医をやっている。

妹の事故を聞いて、休暇をとって帰国した

医師(47)・・・担当医。

第一場 病室

SE病院の音

アオイ ここは、どこ？

(間)

ミドリ アオイ・・・？

タマ アオイ・・・？ (ミドリと同時に)

アオイ・・・

ミドリ アオイ？

アオイ 私・・・？アオイって私のこと・・・ですか？

タマ そうだけど・・・

アオイ ごめんなさい。私、何も・・・

(間)

アオイ ところで、あなたたちは？

ミドリ 私、ミドリ。

タマ タマだよ。

アオイ 初めましてじゃないんだよね・・・？

ミドリ 本当に覚えていないの？

アオイ うん、ごめん

タマ 大丈夫！私たちは一心同体だからね

アオイ ん？

ミドリ あ、えーっと

タマ そう、一心同体・・・私たちはソウルメイトなのです！

アオイ ソウル・・・メイト？？

ミドリ あー、この子ちょっと変わっていて

ミドリ タマ、ちょっと・・・

タマ ん？

SE 足音 二人分

ミドリ ちょっと、話が違うじゃない

タマ やっぱりやめようよ

ミドリ え？

タマ やっぱりよくないよ。こういうの

ミドリ でも、タマだって今のままじゃダメだって思っているんでしょ？

タマ それは・・・

ミドリ じゃあさ

タマ でも、さすがに

ミドリ アンタはそれでいいかもしれないけど

タマ 私は満足しているよ。

ミドリ でも結局私らは本物ではないじゃない

タマ そんなことはない

ミドリ だったらどんなにいいことか。結局、彼女がいる限り私が意思を保つことはないじゃん。

タマ でも、それは本人が望んでいるからで

ミドリ だーから、私はそれが嫌だって言ってるのよ！

タマ うーん。でも、記憶失っているのに騙し討ちは・・・

ミドリ あー、もう。タマはいつつも！

ミドリ とにかく、私は影のままなのは嫌だからね。

アオイ あの・・・

ミドリ うわあ、どうしたの？

アオイ 何かありましたか？

ミドリ ん？ううん。なんでもないよ。それよりもベッドから出て大丈夫なの？

アオイ あ、はい。身体は特に・・・あれ？

タマ それはよかった

(アオイ、ベッドに戻る)

(タマ、ミドリ、椅子に戻る)

アオイ あの、あなたたちに聞くべきことなのかわからないのですが、私は一体誰なのですか？私、何にも覚えてなくて、

ミドリ それは・・・えーっと、なんていったらいいのかな

タマ だから、ソウルメイトなんだよ

ミドリ そ、そう！ソウルメイト！

アオイ お友達的な

ミドリ そう、それに近い

アオイ そうなんですネ。

タマ アオイが私たちの中心でしたから。ほら、覚えてる？去年の今頃

ミドリ タマストープ

タマ うわあ！なんですかいきなり

ミドリ 湿っぽい話はやめにしたくない？

タマ え？でも、これで記憶が戻るかもしれないじゃん。さあ、思い出すのです。そう、

あれは黄昏時の校庭

アオイ 黄昏時の校庭？

タマ そう！古より伝わる伝説の呪文

アオイ 呪文・・・？

タマ ふうー・・・。そう、あれは黄昏時の校庭

ミドリ それさっき言ってた

タマ あ、えーっと

アオイ それで・・・？

タマ 今考えてる

ミドリ 考えるなー！

ミドリ 思いだせよ。記憶を作るな

タマ そうだった！

アオイ あーえっと。なんか、ごめんね。私がこんなことになったばかりに

ミドリ いや、これはタマが

タマ いやー

ミドリ 褒めてない褒めてない

SE 足音

ヒイロ アオイ!?

ミドリ あ、ヒイロ

ヒイロ 目が覚めたのか？よかった

アオイ あの？

ヒイロ ん？どうした

タマ いやー、なんでもないですよ

ヒイロ どした？そんな慌てて

ミドリ タマ、あんたはいいから

ミドリ ん？何が？

ヒイロ まあ、いつか。いやあ、でも元気そうで安心したわ。おばさんから電話来た時は、びっくりしたからな。

ミドリ ごめんね。心配かけて

ヒイロ お互い一人だからな。いってことよ

ミドリ ほんとにね。

アオイ あのー

ヒイロ ん？

アオイ あなたは一体？

ヒイロ はあ？

アオイ ごめんなさい。私、何も覚えていなくて

ヒイロ いや、さっきまで俺と喋っていたじゃん

アオイ 私は何も

ヒイロ は？

アオイ えーっと

ヒイロ いや、さっきまで普通にいつもの碧あおいだったのに・・・

アオイ いつもの

ヒイロ そうだよ。やっぱり、お前変だぞ。

アオイ ごめんなさい。私、何も覚えていなくて、だから、そこにいるミドリちゃんとタマちゃんに思い出すのを手伝ってもらっていたのよ。

ヒイロ ミドリとタマ？誰だそれ？

アオイ え？

ヒイロ 俺には誰も見えないぞ

アオイ え？ほらそこに

ヒイロ だから、俺には碧あおいしか見えていないの

アオイ え？ねえ、どういうこと

ミドリ ヒイロの言う通りよ

タマ だから言ったでしょ。ソウルメイトだって

アオイ え、じゃあ二人が見えているのは私だけ？

ミドリ そうよ。

ヒイロ おーい、どうした急にぼーっとして

アオイ え、あーっと。

ミドリ あとは、私になんとかするから。

アオイ え、ちよっと

ミドリ えーっと、ごめん。ちよっと考え事。

ヒイロ なあ、やっぱり変じゃないか。いや、確かにいつも変だけど、今日のやつは違う。

一体どうなっているんだよ。

ミドリ あー、ちよっと本調子じゃなくって・・・

ヒイロ ちよっと、心配だから先生呼んでくる

(ヒイロ out)

ミドリ あ・・・

アオイ あの・・・ありがとう

アオイ それで彼って

ミドリ 私たちの幼馴染

アオイ そうですか・・・

ミドリ あの調子じゃ、バレるわね

アオイ え？

ミドリ ヒイロには知らせてなかったのよ

タマ ヒイロくんがいくら鈍感とはいえ、流石にこれではバレるかな。

アオイ 知らせてないって多重人格のことですか

ミドリ そう、今までバレなかった方がおかしいのよ

アオイ なんて、知らせなかったんですか？

ミドリ あなたとタマがそう望んだからよ。

アオイ 私が・・・

タマ え？私じゃないよ。ミドリとアオイだよ

ミドリ はあ？そんなわけないでしょ

アオイ あ、あの。わかりました。ありがとうございます。

ミドリ まあ、いいわ

アオイ 覚えている範囲でいいのですが・・・私ってどんな人だったんですか？

ミドリ そうねえ。

タマ ズバリ、変人ですね

ミドリ そりゃ、お前だ。

タマ いえ、そう言う意味ではなく。いい意味で

ミドリ いい意味？

タマ 変でも、それを受け入れられる。というか、「人は人、私は私」ってそう言い切っ

て、一人でなんでもできてしまうから・・・とにかくこの人の陰ならそれでも良い
ってそう思える人というか。なんか恥ずかしい

ミドリ なんでもできるかはさておき、全然「人は人、私は私」って感じではないでしょ。
気弱だし、怖がりだし

タマ それは、ミドリがガサツすぎるだけでは？

ミドリ そんなことないし。とにかく、お淑やかで内気で、人の評価ばかり気にしてた
わよ。まあ、それがいいところなだけどね。

タマ あ、デレた

ミドリ うっさい。とにかく、側から見てもどかしくて仕方なかった。だから、私が
(ヒイロ 舞台下手から入ってくる。)

ヒイロ おう。先生もう少しで来るってよ。

ミドリ あのね。今からいうこと、絶対他の人にバラさないで。約束して。

ヒイロ なんだよ。まあ、いいよ。

ミドリ 私ね・・・多重人格なの

ヒイロ そうか

ミドリ 驚かないの？

ヒイロ ああ、なんとなくそうじゃないかって

ミドリ そっかーバレてたか。いつ頃気づいたの？

ヒイロ 別に、いつとかはないな。なんとなく、そんな気がしてたっただけ。で、今言われ
て、そうだよなって。

アオイ それで、私のこともわかったりしますか。

ヒイロ ん？

アオイ え、あ、いや、私記憶喪失らしくて

ヒイロ はあ？

アオイ つかぬことをお聞きしますが、私ってどんな人だったんですか？

ヒイロ なるほど、碧の人格の一つだけが・・・えーっと記憶を失ったのか？

ミドリ あんたすごいわね。

ヒイロ まあ、伊達に何年も幼馴染してないわ。で、なんだっけ？昔の碧？その、他の人格
とやらに聞いてみれば？

アオイ もちろん聞きましたけど、いまいち噛み合わないというか。

ヒイロ そうだな。中学上がる前くらいまでは、変な言動を繰り返していた印象しかなかっ
たけど、中学くらいになってからかな？急にまとも？になったというか明るくな
って・・・かと思いきやいきなり変な言動したり

タマ ふっふっふ、私のことかな？

ヒイロ そうそう、そんな感じ。でも普段は

ミドリ 普段は私が喋ることが多いからね

ヒロロ そうそうそんな感じ。だから、二重人格なのかなって
アオイ え？じゃあ、私は？

ヒロロ いや、そんな口調の時は知らないな。俺の中では、さっきの2人しか
ミドリ そんなはずは

ヒロロ 碧があんなお淑やかくな感じなんて天地がひっくり返ってもあり得ない
ミドリ だって、本当の碧は、内気でお淑やかで

ヒロロ 落ち着け。俺もすぐく混乱してるんだ。あんな碧見たことなかったから
ミドリ なんかわかしくないのよ。タマと話が噛み合わないし

タマ まるで別人

医師 碧さん。

ミドリ あ、先生

医師 今から診察を行うので、移動してもらえますか？

ミドリ はい。じゃあ、ヒロロまたね。

ヒロロ おう。じゃあ、俺は一旦帰るわ。

第二場

SE 診察室

ミドリ ありがとうございます。

医師 何もなくてよかったよ。

SE 足音

タマ お姉ちゃん！

夕 碧！大丈夫。どこも痛くない？

タマ お姉ちゃん仕事は？

夕 お母さんから話を聞いて、飛んできちゃった。文字通りに

タマ 文字通りに？

夕 飛行機空いていたから。遅くなってごめんね。あ、先生ありがとうございました。

医師 あ、はい。お姉様ですよ。

夕 はい

医師 お母様から事情は伺っています。身体に影響はありませんが・・・

夕 ありません・・・が？

医師 記憶障害の症状が出ています。

夕 え？

医師 あ、でも日常生活に支障はないので、今日中に退院で問題ありません。経過観察のため、来週もう一度来院をお願いします。

碧 はい。

医師 碧さん。もう大丈夫ですよ。

碧 わかりました。ありがとうございます。

SE 診察室の扉

医師 お姉様は残っていただけですか。

夕 はい・・・

医師 先ほど、申し上げた記憶障害についてですが、新たな人格が形成された疑いが高いと考えております。本人は一部人格に記憶喪失が起きたと考えているようですが、辻褄が合わなくてですね。日常生活への支障はないのですが、念のため、どなたか来週の経過観察まで、様子を見ていただきたいと考えています。一人暮らしとお聞きしていますので、事故後の経過観察も兼ねて。

夕 このことを本人には？

医師 伝えていません。事実を知ることによる影響が計り知れないので、本人には伝えないのが得策かと思われれますので。

夕 わかりました。私自身2週間ほど日本に滞在する予定でしたので、問題ありません。

医師 それでは、よろしく願います。

夕 ありがとうございます。

第三場

夕 たっだいまー

タマ 久々の我が家！

夕 言うほど久々ではないでしょ？うわー、暗くない？カーテン全部閉め切ってるの？

タマ ふふっ、この漆黒の空間。久々じゃのう。さて、妾の本気をみせる。クシユン

夕 とりあえず、暖房入れようか？アメリカも寒かったけど、こっちも大概ねえ。

SE 呼び鈴

タマ ヒイロかな？

ヒイロ おう。よかったな。帰って来れて。

ミドリ どうしたの？

ヒイロ いやさつき、電話くれたから。それで差し入れ。

夕 さっすが！

ミドリ お姉ちゃん。今回はどれくらいいるの？

夕 2週間くらいかな。

ミドリ そんなに？

夕 そろそろ、こっちに帰ってこようかなって。

ミドリ え？なんで？

夕 碧のご飯が恋しくなっで。

ミドリ 誤魔化さないでよ！私のことは気にしないでいいから！

夕 そういうことじゃないの。これは本当！

(間)

アオイ あの・・・お姉さん？

夕 私？

アオイ はい。私のこと、教えて欲しいんです。

夕 ヒイロに聞いた方がわかるんじゃないかな・・・？

アオイ 聞いたんだけど、わかんなくて。ちよつと待ってください。今、ミドリちゃんに代わります。

夕 ミドリ？

ミドリ あ、お姉ちゃん？

夕 いつもの碧ねえ？さっきの子が記憶喪失なの？

ミドリ そうなんだけど、ヒイロに聞いたら覚えがないって。

夕 そ、そうなの？

ヒイロ あ、うん。すごい、お淑やかなんだよ。タマとミドリだっけ？その二人は、なんとなく碧らしさを感じるんだけど・・・

夕 そうね。言われてみれば確かに・・・

ミドリ なんか覚えてる？

夕 うーん。どうかしら？私はあるけど違いがわかんなくてね。

ミドリ そう・・・ねえ、なんか隠してない？

夕 え？

ミドリ さっきから、やっぱり、アオイのこと知らないみたい。お姉ちゃんがわからないはずないよ。私のこともタマのこともお姉ちゃんには話したんだよ。

夕 それは・・・

ミドリ ヒイロの話を聞いても変なんだ。初めから、アオイはいないみたいで。まるで、最初からいなかったかのように・・・ちよつと待って、やっぱりそうなんだ。アオイは元々存在していなくて・・・もうわかんないよ。

夕 とりあえず、ね。一旦忘れよ？

ミドリ 一旦、一人にしてくれないかな？みんなで話すから。

ヒイロ 俺、今日はこの辺で・・・

夕 ああ、ごめんね。寒い中呼びつけといて。

ヒイロ いや、俺がいてもしょうがないだろうし。お大事に！

SEトア

アオイ 誰も私のことを覚えていないのね・・・

ミドリ そうみたい・・・

タマ でも、間違いなくアオイはいて、私たちの中心で

ミドリ 中心って何よ

タマ え？

ミドリ 結局、外に出られるのが一人だけで、私はいつも出たい時に出られなくて・・・ア

オイがやりとりする姿を外から見ているだけで、私だったらもつと……あれ？でも、お姉ちゃんやヒロと話していたのは私……タマ……？

SE ノック

夕 碧

ミドリ 私が出る。

ミドリ 何？

夕 ちよつといいかな？

ミドリ うん

夕 今、話しているのって……

ミドリ ミドリだけ……

夕 アオイちゃん？に変わってくれる？

ミドリ いい……けど

アオイ はい。私に何か？

夕 これって、みんなに聞こえているの？

アオイ はい、みんな起きているので。

夕 さっきまでの話って聞いていた？

アオイ はい。

夕 3人とも薄々気がついていると思うけど、アオイちゃんは記憶喪失じゃないの。

アオイ そう、ですか。

夕 うん。私も病院の先生もそうじゃないかって思ってる。

アオイ そうですよ。誰の記憶にもないって。

夕 何かあったの？

アオイ 私は何も……？

夕 そうよね……。タマちゃんに聞いてみてもいいかしら？

アオイ なんです？

夕 オリジナルはタマちゃんだから。でも、こんな感じだから、タマちゃんはそのこと

隠しているんじゃないかと思ってるね。

タマ ばれているか……？

夕 それは、そうよ。あなたのお姉ちゃんだから。

タマ いつから？私がこうなった時にはほとんど家にはいなかったでしょ？

夕 いつからも何もないわ。あれだけ違かったらね。

タマ ふふっ、無理な話よ。結局、私はいるだけで浮くし、ヒロにもお姉ちゃんにも迷

惑だし。だから、ミドリが生まれた。でも、結局ダメだった。私は結局孤独で、馴染めなくて、私は私を捨てきれなかった。あの日も、お母さんから言われたのよ。

「私のせいで、お姉ちゃんが帰ってくる」って。

夕 それは違うの！お母さんが勝手に言っているだけ！

タマ でも、お姉ちゃんはアメリカにいつちゃったじゃん。結局、お母さんも匙を投げた。

夕 本場に違うの。私の意思だから。私が、お母さんの期待通りにしていれば、碧を守るって思ったからそうしてただけ。でも、違った。だからね。

タマ 結局私のためじゃん。誰かに守られるくらいなら・・・

夕 これが私の生き方なの！

タマ でも、私はいらない・・・

夕 3人で一人なんだよ！タマちゃんが必要だと思ったから、あの子が生まれたんでしょ。違う？

タマ そんなことわかんない。もう寝る！

夕 え、ちよつと！

SE ドア

夕 お姉ちゃんはタマちゃんがないと嫌だからね！

ミドリ ねえ、消えるって本当？

タマ 消えると言うより、眠るといったところかな

アオイ 私がその後継・・・？

タマ そう。まともな私

ミドリ 私だと力不足だったからね。

アオイ 私はあなたたちが作った。

ミドリ そう

アオイ 二人が作った理想の碧

タマ そう。結局、私が作ったもの。虚像。

アオイ 虚像・・・ミドリちゃんだって、理想の碧だったんだよね

タマ そうだよ

タマ 私が私を捨てきれなかったからできた嘘。でも、それで幸せならそれでいい。

ミドリ そ、勝手にすれば？

アオイ え？

ミドリ よし、寝よつと。おやすみー

アオイ え、あの・・・いいのかな

ミドリ (囁くように)・・・どうせできない

タマ ふー。これで終わりか・・・。もうちよつと器用に生きられたら違ったのかな。

SE ヤァァ

第四場

SE 学校つぼい雑踏

ヒロロ おう。

ミドリ あ、ヒロロじゃん。あつっー

ヒロロ いつものお嬢様口調はどうしたんだ。

ミドリ ガサツな方で悪かったわね。アオイは寝ているよ。この後も色々あるからね。

ヒロロ すっかり、人気者だな。

ミドリ アオイがすごいだけよ。

ヒロロ そっか・・・それで、オカルト研究会はどうすんだ？

ミドリ なんでもた

ヒロロ 先生がああ教室を別の団体につてさ

ミドリ もういいんじゃない。

ヒロロ そっか。

ミドリ 元々、先輩がいなくなつてから、私とヒロロしかいなかったし。もう理由がないよ。

ヒロロ タマはなんて？

ミドリ さあね。知ったこっちゃないわ。

ヒロロ いいのか？夕さんからの伝統だぞ？

ミドリ 私には疎ましいだけだから、あれはタマのものだから。

ヒロロ ま、今となつてはな。潮時か。

ミドリ じゃ、そろそろ行かなきゃ？

ヒロロ 本当に行くのか？顔色悪いぞ？

ミドリ 大丈夫。

ヒロロ そっか、じゃあな。あ、そういえば、夕さんから聞いたか？

ミドリ え？

ヒロロ あ、ごめん。じゃあ、いいや。

ミドリ ちよつと、そこまで言つたんだから教えなよ。

(間)

ヒロロ 本人から聞いた方がいいだろ。もう時間なんだから。じゃあな

ミドリ なによ・・・

第五場

夕 アオイー！おつかえりー！

アオイ うわあ！びっくりした。

夕 あれ、顔色悪いよ。熱でもあるの？

アオイ 大丈夫だよ。ちよつと疲れているだけ。

夕 タマちゃんは元気？

アオイ あんまり起きてこないかな・・・

夕 結構経つね。

アオイ うん・・・どうしたの？急に

夕 いや、別にね。最近どうしたのかなつて。

アオイ そう。

(間)

夕・アオイ あのね!

夕 あ、アオイちゃん何かある?

アオイ 私は、いいんだ

ミドリ もう、まどろっこしい。お姉ちゃん、私に何隠しているの?

夕 あ、別に隠しているわけじゃないけど。仕事が見つかったんだ。

ミドリ そう、よかったじゃない。

夕 それでね。

ミドリ 半年間もフリーターしてたから、そのままなのかと思った。

夕 それでね。

ミドリ 私のことには気にしないでいいからさ。

夕 それでね。その仕事、受けないことにしたの。

ミドリ はあ?

夕 もういいかって。お母さんにめちゃくちゃ怒られた。この出来損ないって。でも、

もういいよね。

ミドリ ……

夕 もう頑張らなくていいんじゃない?

ミドリ 別に頑張ってるじゃないよ

夕 アオイちゃんは今も寝てるんでしょ?

ミドリ さあね。

夕 ミドリちゃん? やっぱり顔色が……

ミドリ だから大丈夫!

ES 不協和音

第六場 病室

タマ また、ダメだったか。

ミドリ そうとも限らないんじゃない。

アオイ ごめんなさい。体が耐えきれなかった……

タマ 一生失敗し続けるんだろうな。今度は次は何にすれば良いものか。

ミドリ 二人から三人に増えたんだしね。次こそは……

タマ ふふっ、無益とわかっていても繰り返すのも乙なものか……まあ、悠久の時を生

きる私にとっては、造作もないこと……

夕 アオイ?

タマ あ、お姉ちゃんが呼んでる。じゃあ、行ってくるね。

(人物設定)

緑川 碧(17)

多重人格者である女子高生。メインの人格のアオイ、サブの人格のミドリとタマの人格を持つ。解離性の多重人格なので、それぞれが記憶を完全に共有することはない。各人格の行動はそれぞれの人格が記憶している。つまり、身体を3つの人格が共有している形。友人があまり多くない。変わった言動をしてしまうことがあり、学校では浮いてしまうことが多い。

アオイ

事故で記憶を失っている。碧の多重人格の一つで、メインの存在とされている。(以下の部分は迷宮入りしてわからない部分) 実際にはそれは錯覚でミドリとタマが作り上げた新しい人格である。ただ、そのことに本人たちは気づいていないので、本物のアオイと称して理想のアオイを語る。

ミドリ

もう一人の碧、社交的な性格でヒロとおもに話していたのはこちらの人格。自分が陰にいることをよく思っていない。

タマ

碧の多重人格の3人目、かなり幼い性格をしている。自分が陰の人格であることを認めており、アオイ、ミドリ両人に好意的な印象を持っている。若干常識に欠ける部分があり、おかしな言動をしてしまうことがある。

ヒロ(17)

碧の幼馴染。碧が多重人格であることを知らされていないがなんとなく察している。家が隣同士で、両方の家とも両親が不在なため、碧とは親しい。学校で浮きがちな碧を心配している節がある。

緑川 夕(26)

碧の姉。海外の大学を卒業して、現地で精神科医をやっている。妹の事故を聞いて、休暇をとって帰国した。碧を見放した母親に代わって碧を気にかけている(溺愛している)が、それは自分と妹を比較し、妹を見捨てた母親への当てつけでもある。

医師(47)

碧の担当医。多重人格になった時から碧を診ている